

# 小諸新校施設整備事業基本計画策定支援業務委託プロポーザル

## 審査講評

### 1 審査概要

本事業のプロポーザルでは、各分野を代表する六名の審査委員（以下「委員」という。）による審査委員会（以下「委員会」という。）により、募集要領の策定、一次審査及び二次審査について慎重かつ厳正な審査を行った。

### 2 選定結果

委員会が選定した最適候補者等は以下のとおりである。

最適候補者	西澤奥山小坂森中共同企業体 (代表構成員 (株)西澤徹夫建築事務所 構成員 奥山尚史建築設計事務所 構成員 一級建築士事務所小坂森中建築)
候補者 (次点)	コンテナポラリーズ+第一設計共同企業体 (代表構成員 (株)コンテナポラリーズ 構成員 (株)第一設計)
準候補者 (次々点)	齋藤和哉・YWA・ティーハウス設計共同体 (代表構成員 (株)齋藤和哉建築設計事務所 一級建築士事務所 YWA (株)ティーハウス建築設計事務所)

### 3 審査経過

#### (1) 第1回審査委員会

日程： 令和4年5月9日（月）、13日（金）

場所： オンライン会議

内容： 委員長の選出、NSD プロジェクトの理念の確認、実施要領等の協議を実施

#### (2) 第2回審査委員会

日程： 令和4年5月29日（日）、30日（月）

場所： オンライン会議

内容： 募集要領における参加資格要件、審査方法等の協議を実施

#### (3) 第3回審査委員会（一次審査）

日程： 令和4年9月25日（日）

場所： 都道府県会館（東京都千代田区）

概要： 二次審査対象者の選定等を実施

まず、提案書等の提出のあった19者について、参加資格を有すること、及び提出書類について実施要領に規定する記載要領に従って作成されていることなど失格

基準に抵触していないこと、更には委員へ事前説明その他接触などがなく留意事項における禁止事項に抵触していないことを確認した上で、審査を行った。

次いで、第一段階として二次審査対象者の選定に向けた議論の対象者として残したい者の選定の参考とするため、提案書等の提出書類について、予備投票として各委員が専門的知見から10票程度ずつ投票した。【表1】

第二段階として、予備投票の結果を見ながら各委員がそれぞれ提出案に対する印象を述べ、絞り込みの方法について意見を交換した。結果、三票以上を獲得した11者は議論の対象者として残し、0票及び一票の者はひとつひとつ確認した上で、次の段階のリストには含まないことを確認した。

第三段階として、各委員が11者の提案書の中から境界線上にある案を精査し、二次審査対象者の投票対象を九者に絞り込んだ。

次に、第四段階として、九者について一者ずつ各委員の専門的知見からの講評を交えた意見交換を実施し、各委員が三者を選定した。【表2】

最終段階として、票の少ない者からそれぞれの提案内容等について議論を行い、二次審査対象者として五者を選定した。

【表1】一次審査 予備審査結果

投票数	対象者数	審査 No.
6票	4者	2※、10※、12※、14※
5票	3者	9※、11※、19※
4票	1者	7
3票	3者	3、4※、16※
2票	—	
1票	2者	8、15
0票	6者	1、5、6、13、17、18
計	19者	

注1) ※は第四段階へ進んだ者を示す。 注2) 審査 No.は提出書類受付順

【表2】一次審査 投票結果

投票数	対象者数	審査 No.
6票	1者	14※
5票	1者	2※
4票	1者	12※
3票	—	
2票	—	
1票	3者	9※、10※、16
0票	3者	4、11、19
計	9者	

注3) ※は二次審査対象者

#### (4) 第4回審査委員会（二次審査）

日程： 令和4年11月6日（日）

場所： 小諸高等学校音楽ホール（長野県小諸市）

概要： 実施体制及び提案書に基づき、一者当たり発表 15 分の公開プレゼンテーションを五者続けて行った。続けて五者が一堂に会して 75 分の公開ヒアリングを行った。

ヒアリング終了後、提案書及びプレゼンテーションやヒアリングなどを踏まえて委員会において次のとおり審議を行った。まず、各委員が専門的知見に基づいた評価を示しながら、意見交換を展開した。その上で議論の対象として残したい提案の参考とするため、各委員が最大二票の予備投票を行った。【表3】

結果、西澤奥山小坂森中共同企業体、コンテンポラリーズ+第一設計共同企業体及び齋藤和哉・YWA・ティーハウス設計共同体の三者に票が入り、残りは推したい審査委員がいなかった。そこでこの三者を議論に残すこととした。

次いで、上記三者について、NSD プロジェクトの理念に対する考え方や学びに対する理解、設計の技術力などによる総合的な評価・議論を行うとともに、各者の作り出すバリューや課題などを議論し、委員会の総意として、最適候補者を西澤奥山小坂森中共同企業体に、候補者（次点）をコンテンポラリーズ+第一設計共同企業体に、準候補者（次々点）を齋藤和哉・YWA・ティーハウス設計共同体に選定した。

【表3】二次審査 予備投票

	提案者名（発表順）	投票数
1	(株)カワグチテイ建築計画	0
2	らいおん+HAGISO 共同企業体	0
3	齋藤和哉・YWA・ティーハウス設計共同体	1
4	コンテンポラリーズ+第一設計共同企業体	4
5	西澤奥山小坂森中共同企業体	6

## 4 講評

### (1) 全体講評

商業科、普通科及び音楽科（長野県内唯一）の三学科を持つ学校に再編統合する本事業に対して提出された 19 者の提案は、どれも熟慮された提案であった。NSD の理念に共鳴し、多くの時間と労力をかけて、応募の労を取って頂いた方々に感謝の意を表したい。

本事業は、小諸城址懐古園や北国街道沿いの歴史文化溢れる城下町にある小諸商業高等学校と山々の木々に四季の移ろいを感じる浅間山の麓にある小諸高等学校の二校の統合であり、両校関係者のみならず地域の大きな注目と期待を集める小諸新校の学校づくりの一環である。本プロポーザルにより選ばれた設計者と、長野県が目指す新たな学びを実現する学習空間を基本計画から一体となって実現する全国的にも例のない事業である。

二次審査に残った五者は、新たな学びの実現や地域における学校の在り方、商業科・普通科・音楽科の三学科融合など新校のもつ新たな希望と課題に対して真摯に向き合った優れた提案であった。それらからは、学校施設の整備という外形を超えて、地域の課題として「教育と建築の一体改革」を実現しなければいけないという気概が感じられた。最終的には、未来に向けた人づくり・地域づくりのサポートと三学科の融合の実現に対して、蓋然性の高い提案を行った西澤奥山小坂森中共同企業体を最適候補者に選定することとした。

ここからが本当のスタートである。最適候補者に選ばれた主体には、学校や地域など学校づくりに関係するすべての人が、自分たちが携わったから良いものができたと言えようと言える学校づくりとなるよう、丁寧に本事業に取り組まれることを期待している。

### (2) 個別講評（二次審査対象者）

#### 西澤奥山小坂森中共同企業体《最適候補者》

学校と地域のもつ課題に対して明確なマニフェストを掲げたこの提案は、マニフェスト自体が的確でありかつその回答が明快に表現されていること、既存棟と寄り添うように増築された新棟の回遊動線により、生徒・教職員が出会えるハプニングや生み出すアクティビティの掴み方が的確かつ魅力的であることなど、チームの高い技術力や提案力が窺える。また、教室廊下間の間仕切りのセットバックによる既存棟改修は、新校が目指す三学科連携・融合の実現可能性、更には汎用性も評価でき、今後の他校への援用可能性も高い。更には平面・断面計画、除却などの計画に複数のオプションを持ち、課題の一つであるコストコントロールに関する柔軟な対応力が期待できる。

意欲的な建築を世に問うている管理技術者と厳しい現場を潜り抜けてきた若手というこのチームの構成が、骨太な課題を新しいアプローチで解決していこうとする NSD の精神と相性が良い、という意見があったことも付け加えておきたい。

ピロティの採用については、断熱対策やコスト管理、さらには冬期利用の方策など、いくつかの課題が存在するが、このチームは、二次審査のプレゼンテーションやヒアリングで、そうしたリスクを先んじて取り上げ、技術力に裏付けられた具体的なアプローチに言及しており、そうした柔軟な姿勢についても、本事業と適応性が高いと評価された。

### コンテンポラリーズ+第一設計《候補者（次点）》

緩やかな曲線屋根で豊かな大空間を持つ音楽ホールや第二体育館がある新校舎の二階レベルと既存棟の一階レベルを「小諸テラス」でつなぐ提案である。新校舎整備を音楽の力による地域の課題解決の糸口と考えたチームは、説明や受け答えには誠実さがあり、ワークショップの丁寧な展開と提案から感じられる確かな技術力とあわせて、小諸のシンボルとなり得る新校舎の実現が期待できる魅力的な提案であった。

しかしながら、新校舎と既存棟の間に物理的な距離があり、音楽科と商業科・普通科の生徒・教員が連携・協働をする姿のイメージが難しく、新校の目指す三学科の融合についても十分な説明が得られなかったことから、惜しくも次点に留まった。

### 齋藤和哉・YWA・ティーハウス設計共同体《準候補者（次々点）》

北側の地域連携棟と南側の音楽ホールの中心にセンタープレイスを配置した提案である。生徒・教職員の居場所を点在させ、連携・交流を促す既存棟の改修は魅力的で評価を集めた。新校の学びのみならず災害時の避難動線も考慮する幅広い検討も好印象であった。

一方で、トレイル上の空間的仕掛けや生徒・教職員のアクティビティが、イメージしにくい、新校舎が音楽科の生徒・職員の居場所に偏っているため商業科・普通科が行ききかけが少ないなど、生き生きとした活動を創造しにくいとの指摘を受けた。結果、既存棟との回遊性を提案した最適候補者との技術力の差が明確となり、次点に次ぐ評価となった。

(以下、発表順)

### (株)カワグチテイ建築計画

地域連携室やラーニングコモンズなどを既存棟と新校舎間の新たな通路である「小諸パサージュ」を挟み高低差を利用したテラスでつないだ提案である。図書館や地域連携に空間的ボリュームが与えられており、それらに学びの拠点を見出した着眼点が評価された。

しかしながら、増築棟にボリュームを持たせたことによりグラウンド面積が大きく減少すること、小諸パサージュに対する色付けの薄さ、計画を充実させるためのワークショップの具体性、分棟の効果と寒冷地対策への説明不足などについて懸念が出された。こうしたことが積み重なり、それ以上の評価が得られなかった。

### らいおん+HAGISO 設計共同体

敷地の中央に新たに配置した「セントラルアベニュー」の両脇に諸室を散りばめる提案である。まちづくりの実績があるチームらしい提案であり、ヒアリングの受け答えからワークショップに対する意気込みとそれを計画・設計に反映できる力量が窺えた。

一方で、長手方向のエキスパンションジョイントや軸力を受ける柱の配置などは構造的に実現可能か、特徴的な屋根形状への凍害対策は問題ないか、セントラルアベニューの生徒の密度が高くなると、落ち着かない空間となって、生徒の居場所として支持されない事象が生起するといった懸念が出され、それ以上の評価が得られなかった。

## 5 プロポーザル概要

### (1) 経過

令和4年5月9日、13日	第1回審査委員会	
令和4年5月29日、30日	第2回審査委員会	
令和4年7月25日	公告	
令和4年8月4日、5日	現地説明会	
令和4年8月10日	参加表明書の提出期限	25者提出
令和4年9月5日	一次審査書類の提出期限	19者提出
令和4年9月25日	第3回審査委員会 (一次審査)	二次審査対象者の選定(五者)
令和4年9月29日	一次審査結果通知	
令和4年10月25日	二次審査書類の提出期限	五者提出
令和4年11月6日	第4回審査委員会 (二次審査)	公開プレゼンテーション 公開ヒアリング 最適候補者等の選定

### (2) 審査委員会等構成

審査委員会(五十音順・敬称略)

区分	氏名	所属等	分野
委員長	赤松 佳珠子	法政大学・教授 (株)シーラカンズアンドアソシエイツ・代表取締役	建築
委員	垣野 義典	東京理科大学・教授	建築・教育
委員	高橋 純	東京学芸大学・教授	教育
委員	寺内 美紀子	信州大学・教授	建築
委員	西沢 大良	芝浦工業大学・教授 (株)西沢大良建築設計事務所・代表取締役	建築
委員	武者 忠彦	信州大学・教授	地域

アドバイザー

氏名	所属等	分野
小野田 泰明	東北大学・教授	都市・建築学